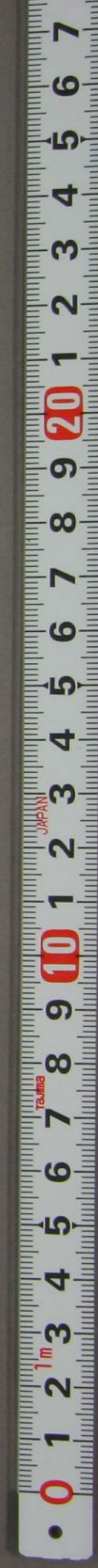


新封建論

完

3942





新封建論

天下ノ勢之ヲ百年ノ久ニ憂シベク之ヲ一朝ノ
 頃ニ回ラスベカラス理ニ達セス勢ニ明ナラ
 サル者紛然更作シテ以テ天下ヲ新セト欲ス
 則鹵莽滅裂常ニ不測ノ患アリ故ニ古ノ聖人
 必ス重固沈深ノ思アリ能ク天下ノ勢ニ循テ天
 下ノ勢ニ逆ハス其効遲緩ナルカ如シ而其憂變テ
 不測ニ至ラス後ノ君子亦當ニ天下ヲ經營セト
 欲セリ而意速成ニ在リ事ヲ好テ已マズ勢テ
 變革ヲ行フ理勢ニ逆ヒ人情ニ從ハス治メン

大正十一年四月
隈侯爵邸寄贈

シテ及テ乱ル是王安石ノ宋祚ヲ短スル所以ナリ
竊ニ今日朝意ノ所嚮ヲ察スルニ事ヲ好テ
速成ヲ欲シ絶テ老成持重ノ志ナク妄ニ書生ガ
暴論ヲ聽キ天下ヲ郡縣ニセント欲ス天封建
ノ弊ヲ成ス一日ノ故ニ非ス而天下ノ人心久已ニ
之ニ安ヒリ今故無シテ之ヲ變シ以テ一人ニ私
レント欲ス我恐クハ滅裂ノ患防グ可カラズシ
テ天下ノ乱過ム可ラザルナリ且ヤ封建ノ良制
タル其効已ニ我邦ニ見ハル必シモ三代ヲ説
ズ理ニ達シ弊ニ昧カラザル者ヲ待ズシテ之

ヲ知レリ我竊ニ今日ヲ觀テ深憂アリ今ノ政ヲ
為ス者ノ如キ甚朝廷ニ取ル所ニ非ルナリ余
之ニ告テ曰ク嗚呼何其言ノ謬レルヤ子其ニヲ
知テ其具ニヲ知ラザルナリ余嘗テ謂フ郡縣ノ
制譬ハ長蛇ノ如シ一處割ヲ受クレハ遍身皆
痛ム封建ノ制譬ハ蜈蚣ノ如シ一足折ルト雖尺蠖
足能走ルト常ニ自ラ以テ知言ナリトス今ニシ
テ之ヲ思ニ其見ル所ノ者偏ナルヲ知レリ蓋
天下ノ勢小アリ大アリ天下ノ事内アリ外アリ
封建ハ内ヲ治ムルノ小勢ニシテ外ヲ御スル大

弊ニ非ス余熟古今ノ変ヲ考ヘ之ヲ天下萬
國ノ弊ニ推シ以テ深ク封建ノ害ヲ知ル事有リ
夫封建ノ内ヲ治ムルニ善キハ其本末相副シ輕
重偏ナラザルニアリ其事毎ニ方テハ天下ノ邦君
各其土ヲ私シ其民ヲ私シ以テ其分ヲ樂ム老子
ノ所謂至治ノ世民其外ヲ知ラス相往來セズ鷄
鳴狗吠其境ヲ出サルモノニシテ是上古蒙昧ノ
風ナリ其人智既ニ開ケ人欲日々ニ長スルニ
至テ上ノ威カ下ニ達セズシテ尾大掉ハサルノ
患興ル國其政ヲ異ニシ君其敗ヲ異ニシ天下ノ

民其一本ナルヲ知ラザルニ至ル此時ニ至ツテハ
堯舜周孔ノ聖出ルト雖亦天下ヲ均スヘカラ
ザルナリ故ニ周公ノ制ヲ以テ後世尾大ノ患ヲ
拒ク事能ハス八百國變ジテセトナリ紛々關亂
シ周室降テ小諸侯ニ比ス孔子褒周ニ生レ
春秋ヲ作り天下ノ諸侯ニ教ヘテ周室ヲ推尊シ
以テ一王ノ法ニ歸セントス公山弗擾佛肝ノ台
ト雖モ猶汲々之ニ應セントス而天下ノ勢終ニ
挽回ス可カラス徒ニ齊桓一匡ノ功管仲九合ノ
力ニ興歎シテ以テ其志ヲ見ハセリ孟子亦曰ク

今ノ諸侯ハ五霸ノ罪人ナリ曰ク諸侯放恣ナリ
又曰ク諸侯其已ヲ害スルヲ疾ミ盡ク其籍ヲ去
レリト故ニ聖人ノ制ヲ以テ封建ノ未弊唯諸侯
相争ノミナラス必ス王室諸侯相争ニ至ル然則
封建内ヲ治ムルノ効ヨリ亦終ニ此ノ如シ其特ム
ニ是ラサルヤ知ヘシ况蛮夷内ヲ誣リ国家外憂
アルニ至テハ封建ノ患害更ニ甚シ周室穢
戎狄ノ禍常ニ京畿ニ逼ル其盛時於テモ三師
常ニ南征小伐ノ勞ニ當リ諸侯ノ力能之ヲ外扞
禦スルヲ聞カス其衰ル幽王驪山下ニ死シ諸

侯烽火ヲ望テ救ハズ所謂藩ト為リ翰ト為ル
ノ功何ニ在リヤ秦天下ヲ郡縣ニシ天下ノカヲ合
シ長城ヲ築キ以テ北胡ヲ防ク漢以未皆其力
ヨレリ然氏後世夜郎自ラ大トシ治教武政其
道ヲ得ズ是ヲ以テ往々外侮ヲ免レズ是政ノ罪ニ
シテ郡縣ノ罪ニ非ス蓋古今封建ヲ論スル者
柙子厚ヨリ善ナルハナシ其古今ノ形勢天下ノ
事理ニ於テ明ナル事火ヲ觀ルカ如シ封建ハ
聖人ノ意ニ非ルナリ天下ニ公トナルノ端ハ秦曰
始ルト云ガ如キ其識カ卓絶幾ト二十年回儒

生ノ能及ブ所ニ非ス惜クハ唯自治ル所以ノ者
ヲ論ジテ未夕外ヲ防ク所以ニ及バサル天下
ノ患ハ一テラサルヨリ大ナルハナシ兵カ一テラ
サレハ則弱シ敗カ一テラサレハ則貪シ十人
ノ常人以テ烏獲ヲ擒ニスヘシ十人百家ノ産
以テ石崇ニ較スベカラス何トナレハ分ルト分レ
ガルトナリ封建ノ制ハ分ルノ極ナリ郡縣ノ
制ハ合スルノ極ナリ蜈蚣ノ能走ルハ衆足皆
其所屬ヲ同フスレバナリ若足毎ニ其意ヲ異ニ
セバ一寸モ動ク可カラス而頭ノ蛇一頭ハ東ニ

ト欲シ一頭ハ西ニト欲ス其行ク事能ハガレ
必セリ故ニ天下ニ自立シテ以テ萬國ト抗峙
セント欲スル者ハ必ス郡縣ノ制ニ非スニハ能ハ
ス茫々タル西間國ヲ立ル者萬ヲ以テ救フ五大
洲中獨立ノ國ナラサルハナシ未夕曾テ一國ニ
封建ノ制ヲ以テスル者アラス歐羅巴ノ諸國古ハ
籍土ノ制ナリシモ今日ノ盛ヲ致ス所以ハ
皆其制ヲ廢シニ起レリ耳曼合衆國等
如キハ小國多ク相聚リ其カラ合シ其賊ヲ合ス
其一邦ヲ治ムルハ各具法制ヲ異ニスト虽外國

ニ交リ外敵ニ戦フニ至テハ必ス之ヲ總會或ハ
紛領ノ權ニ委子律條ヲ奉守シテ以テ其國
ヲ保フ之ヲ聯邦ト云ヒ之ヲ合衆ト云フ多頭ニ
シテ猶一頭ナリ且其各邦小ナリト雖亦各自
主ノ大國タリ我邦三百ノ諸藩或ハ二万石或ハ
三万石凡分星散シテ其政カ分ル、ガ如キニ
非ス我邦封建ノ制ハ之矣雄天下ノカヲ分裂シ
テ以テ其一時ノ私ヲセシニ出ツ是ヲ以テ宰
割分裂殆ト紛紀ナク其尤小ナル者或ハ一郡
一邑ニ過キス其大ナルモ亦其管轄或ハ教州ニ

分在シ或ハ遠ク數百里ノ外ニ散セリ其カノ合レ
亦極レリト謂フベシ而數百年間其地其民ヲ
私セシヨリ其風氣好尚殆令治法一ノ同シキ者
ナシ殆一君主ノ下ニアルモノニ非サルニ
似タリ試ニ諸小藩ノ地ヲ徃来スルニ一日ノ中
十里ノ間其政治貨幣貧富強弱風俗語言ノ別
其幾變ト云コトヲ知ラズ是豈以テ政ヲ爲ス可ケン
ヤ昔北條氏元賊ヲ西海ニ熾セリ是時封建ノ弊
未タ成ラズ天下ノ武士皆小條氏ノ命ヲ聽ケリ
故ニ能ク令ヲ千里ノ外ニ發シテ偉功ヲ吐嗟ノ

同ニ奏セリ藩ニ相峙シテ各其権ヲ擅ニスル
今日ノ如クシバ時宗タトヒ身ヲ以テ天下ニ率先
スト雖氏変シテ其カヲ得ル事能ハズ天下毎
事ノ時藩國分列シ仰テ一君ヲ奉シ朝覲會
同其儀缺ル事毎キ外ヨリ之ヲ觀レハ夫然一トシテ
礼序アリ三代ノ盛典復今日ニ行ハレ昇平ノ觀之
ヨリ美ナルハ毎シト謂ヘリ海内不幸一旦事アレ
ハ蜈蚣ノ象足思ヒニ四方ニ走リ天下ノ事
一トシテ其カヲ得ル事ナク徒具害ヲ受ルノ
今五大洲中独立不羈ノ國各其自主ノ権ヲ行

ヒ以テ相下ラス是誠ニ大封建ノ形ナリ而未能
昂然獨尊萬國ノ上ニ特立シ萬國ノ君タル者
アラズ勢國ヨリ分レテ合ス可カラサルナリ從令
能萬國ノ主タルモノアリトモ萬國ヲ合一シテ以
テ我ニ聽カシメ其死命ヲ宰制スル事能ハサル
ヤ必セリ是則封建尾大ノ病ニシテ所謂政治多頭
ナルノ患ナリ若我地球ノ外別ニ一地球アリ
テ其大カ全威ヲ振ヒ以テ我地球ヲ侵奪シ
我地球ヲ紛奪セハ我地球ノ萬國必ス將ニ其カヲ
合セ其賊ヲ合セ其自主ノ権ヲ棄テ凡ノ如ク莽ノ

聯邦トナリ合邦トナリ以テ一君主ノ命ヲ聞キ以テ
他ノ地録ノ暴害ヲ防カント又是外ヲ禦ノ勢固
ヨリ合セザルヲ得ザル所ナリ是天下ノ理也見易
シテ天下ノ勢最明ノ易キ者ナリ故ニ國ノ能
自立シテ外敵ノ侮ヲ受ケザル所以ノ者ハ其
一頭ニシテ多頭ナラザルヲ以テナリ然則我邦
近古未タ外敵ノ虞アラザル時ハ封建ノ治固ヨリ
不可ナルナシ今日外ニ萬國ヲ以テ受ケ而我自主
自立ノ權ヲ全セント欲ス則區々封建ノ制豈
能天下ヲ維持セシヤ或ハ云フ封建郡縣必シモ

其利害ヲ論セス苟其君主ノ權能天下ニ行ハレ
政柄其本ヲ失ハスンバ天下皆以テ治ムベシ若
其政本立サレハ郡縣ト雖亦必分裂シテ其害
タル封建ニ異ナラスト夫天下ノ英君賢辟ハ毎
ニ世々出テス徒善ノ以テ政ヲ為ルニ足ラザル
ヤ久シ不韋ニシテ庸劣ノ至出ルコトアルモ
天下ノ法制素定シテ治ヲ為ニ易カラシメバ猶以
天下ヲ維持スベシ宜王ハ中興ノ主孔孟ハ古今
ノ賢而衰周ノ業ヲ興ス事能ハス晋ノ元帝
宋ノ高宗其文中人ニ及バサレ氏亦能一隅ヲシ

守シ數百年ノ祚ヲ長クス是制國ノ法異ニシテ
外ヲ防グノ便ナルハ郡縣ヲ以テ良トスルガ故ナリ
今下朝廷乃意其封建ニ有ルカ其郡縣ニ有ルカ
吾儕小人ノ得テ窺フ處ニ非ス且數百年ノ勢
之ヲ一時ニ變セントスル亦易々タルニ非ス後令
朝廷之ヲ變ズルニ意アルモ亦必百年ノ久ニ斯
シテ之ヲ一朝ノ頃ニ求ム可ニ非ス但天地ノ
氣運既ニ開ケ五洲ノ間甚近ニ至テハ前百年我邦
ノ外唯支那朝鮮阿蘭アル事ヲ知リシ世ト時勢
大ニ同シカラス只我邦ノミヲ墨守シテ小安ニ

安ス可カラサルハ允志氣アル者ノ皆知ル所ナリ
又我貧弱孤寡ノ勢ヲ誇大シ空拳ヲ振テ以テ
故ナク外國ヲ敵視スヘカラサルモ三尺童子ノ
能辨ズル所ナリ舊幕府政ヲ失ヒ國體ヲ辱
シヨリ天下幾ト乱レ大政終ニ朝廷ニ歸シ復
古ノ業成ルニ及テハ開物成務ノ責内治外交ノ
重キ固ヨリ之ヲ他人ニ誣スル事ヲ得ス必ス將
ニ萬國ニ對峙シテ以テ自主自立ノ國權ヲ決定
シ全國ノ人民ヲ撫安シ以テ天祖付託ノ
神州ヲ保護セシメテ謀ラントス舊幕府政ヲ覆

ル時ト雖氏 朝廷素ヨリ国家ヲ憂ヘサル事ナシ
況天下内外ノ政小トナク大トナク 朝廷
ニ帰スルニ至テハ其憂ノ大ナル亦必ス昔ニ倍
セリ故ニ 朝廷天下ノ政ヲ親シ玉フハ苟モ以
テ推テ我ニ收ムルノミニ非木徒ニ以テ神功
ノ安ヲ謀ラントスルノミ故ニ 朝意ノ郡縣ニ
有ルト否トハ姑ク論セズ唯天下ノカヲ一ニ
シ天下ノ富ヲ一ニシ 分裂ノ禍ナク一致ノ心ヲ
合シ因循ノ奮習ヲ洗ヒ開明ノ新境ニ進ミ偏
頗固陋ノ淺見ヲ破リ不羈独立ノ大模ヲ立テ
萬国

ニ及バサル所以ノ者ヲ補蓋シ萬国ニ度越スル
所以ノ者ヲ維持セントス是其著眼ノ處外ニ有テ
内ニ有ラズ而其著キノ處ハ内ヲ主トシテ外ニ
及ボス皆我自主自立ノ權ヲ全シテ國體ヲ辱
メサルヲ求ムルノ外豈他事アラシヤ故ニ親政
以未取リ迄々トシテ至治ノ速ニ興ルヲ期望ス
天下七百年未人ノ中風ヲ病メルカ如シ故ニ今
日ノ事百廢皆興ラサル事能ハス夫洲方ニ日
新ノ世ニ属ス故ニ我邦ノ事亦古ニ益シテ今
創メサル事能ハス而外人徒其紛々更作スル

痾ムモノハ其故ヲ思ハザルナリ之ニ譬ルニ 夙
興夜寐シテ其業ヲ務ムル者ニ勸メ其ヲテ
其肢ヲ怠タリ只仰臥セシムルガ如シ亦誤ラスヤ
而復古以耒天下ノ歩寸進シテ寸退シ未其故處ヲ誰レ
ズ是其故何ゾヤ 朝廷ノカ極マル所アリ天下
ノ心偏スル所アルナリ我試ニ其梗概ヲ論セニ
天下ノカ固ヨリ大ナリ而其分ル、ヨリ弱ハナシ
天下ノ富固ヨリ衆ナリ而其分ル、ヨリ貧ナル
ハナシ今百金ノ家十家アリテ各其業ヲ営セン
ニ千金ノ家一家ノ其カヲ逞スルニ如カス一萬

石ノ国十国ニテ各其兵ヲ練ラニ二十万石ノ国
一國ノ其功ヲ速ニスルニ如カス蓋シ其賦分ル
レハ其カノ及フ所其量ニ盈ル事能ハザルナリ
今三百ノ藩天下ヲ分ナリ而 朝廷僅ニ其一ニ居ル
之ヲ諸侯ニ比スレハ稍大ナルノミ 神州ノ富
二千萬石ニシテ 朝廷ノ有スル所七百万石ニ
スギス其千餘萬石ハ分裂シテ數百ナリ諸
藩ノ士族マタ其七百万石ヲ食ヒリ是天下ノ富
朝廷諸藩ト士族ト之ヲ三分スルナリ戊辰ノ年
薩長肥土乃四藩首トシテ版籍ヲ奉還セシ

天下ノ諸侯ヲ改メテ藩々ノ知事トシ府縣ト
立テテ三治一致ノ名アリ是天下ノ富ト天下ノ
カト悉ク朝廷ニ歸セシガ如シ而其實ヲ察スル
ニ猶依然タリ三百藩ノ賦ハ皆三百藩ノ用ニ供
シテ朝廷其一分ヲ供スル事能ハス諸藩其
官ヲ世襲シ其士民ヲ私シ其貸賦ヲ私シ其兵力
ヲ私シ其政令ヲ私シ其制度ヲ私ス朝廷ノ
權其及フ所府藩縣ニ限り藩廳ニ至テハ只皮面
ノミ其實ハ猶自主自治ノ侯國ナリ故ニ朝廷
一令アル毎ニ藩々奉承セサルヲシ而未必シモ

行ハレス 朝廷天下ノ人々ヲ按キ天下ノ富ニ在
ロント欲ス而諸藩猶世襲ス 朝廷天下ノ富ヲ
以テ天下ノ有耶ヲ養ハント欲ス而諸藩皆世祿
ナリ 朝廷天下ノ兵ヲ強セント欲ス而諸藩
世祿ノ士皆兵ナリ兵ノ名アリテ兵ノ實ナク
萬ニ滿ルノ士アルモノモ戰古唯ニ三分ニ過キス
其七分ハ徒ニ仰食スルノミ 朝廷別ニ士農工商
ニ養リ任ニ勝ルモノヲ取リ以テ筋節ノ兵ヲ編
セントス而之ヲ養ノ資ナシテ七百万石ヲ以テ虚名
ノ兵ヲ養ヒ而其實戰ニ任スル者幾何ナシ且訓練

ノ術給養ノ方亦藩ゴトニ異法ヲ異ニシ能一定
スル事ナシ不幸ニシテ外侮アラハ朝廷其何ヲ以テ固ヲ
保タシ而天下ノ士醒然七百萬石ヲ坐食シ以テ少シクモ愧ス
是豈其本心ナランヤ諸藩ノ制然ラシムルナリ 朝廷
天下ノ地祖ヲ一ニセント欲ス 諸藩ハ則知ルベラス
朝廷天下ノ田制ヲ一ニセント欲ス 諸藩ハ則知ル可
カラス 朝廷天下ノ官制ヲ一ニセント欲ス 諸藩則
同シカラス 朝廷天下ノ貨幣ヲ一ニセント欲ス 諸藩則
同シカラス 同シカラサルノミナラス 或ハ又偽造贋貨鑄シ其負
債ヲシテ 朝廷ニ歸セシム 朝廷天下ノ學校ヲ一ニセント

欲ス而諸藩各其制ヲ以テス 朝廷天下ノ刑法ヲ
一ニセント欲ス而諸藩各其法ヲ以テス 九天下ノ
富强ヲ致ス所以ノモノ皆 朝廷ノ自ラ制スル
事能ハサル所ニシテ一切ノ制度政令分裂シテ
均シカラス 其九天下ニ復要ナルモノハ兵士賤下
ニアリ而 朝廷之ヲ如何トモスル毎シ嗚呼
朝廷タル者亦難カラズヤ或云フ賊諸藩ニ有リ
朝廷亦其富ヲ享ケ兵諸藩ニ在リ 朝廷亦
其力ニ頼ルト是亦迂儒俗學ノ見ナリ 朝廷
ニ在リ 諸藩亦其富ヲ享ケ兵 朝廷ニ在リ 諸藩

亦其加ニ頼ル可キ耳蓋兵賊ハ天下公共ノ利
ナリ而其政本ハ必之ヲ一ニ歸セサルベカラス試ニ
ヲモヘ兵ノ一奉一日モ天下ニ益カル可カラサル
者今や有用ノ賊ヲ賈シ天下毎用ノ人ヲ養ヒ
強テ之ヲ名ケテ兵ト云フ兵ノ要ハ衆ニ在ラス
シテ精ニアリ諸藩ノ兵衆ナラサルニ非ス而奮
習去ラス姑息例ヲナシ其能節制コ入り實用
ニ供ス可キ者アル事ナシ而兵ノ名ヲ以テ兵ノ
食ヲ食ス 朝廷之ヲ精選スル事能ハズ又別ニ
精兵ヲ募ルノ食ナシ 天下一日モ瘵スヘカラザル

者ニシテ而其益用ヲ知レトモ改ムル事能ハズ是
其本ヲ一ニセサルノ弊獨 朝廷其害ヲ受ル
ノミナラズ 諸藩天下亦必其病ヲ蒙ランニ是ヲ
觀テ以テ其他ヲ推スヘシ 朝廷富強ヲ求
ルノ意是ノ如ク其勉メタリ而天下未曾之ヲ
奉承スル事ナシ是 朝廷ノ力極マル所アル
ナリ何ヲカ天下ノ心偏ナリト謂フ天下ノ人古今
ノ形勢ヲ察スル事能ハズ 朝廷徒ラニ新ヲ
好テ以テ紛更ニ善トシ其奮習ニ汗染シ其偏見
ニ固著シ唯其身家ニ私シテ國家ノ憂ヲ憂ル事ヲ

知ラス天下ハ猶人身ノ如シ人身ノ尤重キハ頭ヨリ重
キハ十シ 苟モ頭腦病傷セバ四肢百骸皆動ク
能ハス 朝廷ハ腦ナリ天下ハ四肢百骸ナリ今
疾病外邪未攻ムルノ秋ニ方リ 朝廷ノ頭腦
ヲ保護スル事能ハスンバ四肢百骸其能獨存セ
ンヤ詩ニ云ク兄弟牆ニ鬩ケトモ外其侮ヲ禦ク
ト是年足平生ノ事ノミ国家ノ事ニ至テハ外侮
多ク内鬩ニ兼シ指顧ノ間變故百出之ヲ禦カシ
ト欲ルモ及ブ事ナシ況外侮方来ルノ時ニ
シテ 君臣間尚其平時ノ私心ヲ存シ其国家ニ

傾クニ至テハ則内ニ鬩カント欲スルモ已ニ得可
カラス 況能其侮ヲ禦シヤ奮幕府 朝廷ヲ
奉セサル時ニ當リ天下ニ三ノ藩其国ヲ固守シ
テ以テ 朝廷ヲ援ク是時ニ於テ 朝廷ニ三ノ
藩ニ因テ以テ重トス何ゾヤ其 朝廷ニ抗スル
者国内ニ在レバナリ是ヲ以テニ三ノ藩其国ヲ
以テ 朝廷ノ安危ヲ為ス事ヲ得タリ幕府既ニ
除キ 朝廷大政ヲ握リ外萬国ニ對スルニ至テ
ハ二三ノ藩以テ 朝廷ヲ重スルニ足ラス
朝廷亦二三ノ藩ニヨツテ以テ天下ノ重トスル

能ハズ必スヤ天下ノカヲ冠セ合シテ一體ト
ナルニ非レバ以テ天下ヲ維持スベカラス何ト
ナレバ我ト對立スル所ノ者國內ニ在ラスシテ
国外ニ在レバナリ是 朝廷ノ意厚薄アリ
二三ノ藩輕重アルニ非ス内、外ノ勢大ニ變シテ
天下ノ局面同シカラサレハナリ故ニ今日我自主自
立ノ權ヲ全スル事 鉅ハスシテ 日本政府ノ力
屈スルアレバ則 日本ノ國體皆其病ヲ受ク
而今ノ人獨其富ヲ私シ其利ヲ享ケント欲スルモ
其能獨ヲ私享ス可ケンヤ四藩ノ版籍ヲ奉還

セシハ深ク天下ノ大勢ニ觀ル事有ガ如シ吾其
天下ニ率先シテ數百年ノ弊習ヲ洗ヒ大ニ
朝廷ヲ輔翼シ以テ 日本自立ノ權ヲ完全セシ
事ヲ望ム而二三年ノ間未其之ニ繼グノ偉舉
アルヲ見ス去年赤山形南部ニ藩断然知事ノ
職ヲ辭シ其藩ヲ廢セント請ヒ和歌山ハ大ニ其
國ヲ變シ知事城ヲ出テ私弟ニ退キ祖先ノ廟
ヲ毀テ本主ヲ家廟ニ移シ士農工賈編伍シテ其力
役ヲ同シ人々ヲ商賈医トニ按テ之ヲ廟堂ノ上
列ス 苗木ハ其士族悉ク世祿ヲ梓シテ農籍

ニ歸シ長岡亦其藩ヲ廢シ
蕞爾小瀆ハ其藩ヲ
並ス以上ノ數藩其爲ス處
深淺ノ別アリト雖モ要
スルニ皆能時勢ヲ量リ
公私ヲ辨シ 朝廷ノ必ス
立サル事ヲ得ズ 政府ノ必ス
援ケサル事ヲ得ザル所
以ニ注目スル者ニシテ
其公道ヲ振擧スル實ニ
天下ヲ聳動スルニ足レリ
余竊ニ思フ天下ノ人
皆此心ヲ以テ心トセハ
天下ノ事必シモ百年久ク
待スシテ富強ノ實以テ
興ルベシ 近比高知藩
其士族文武ノ常責ヲ免
シ之ヲ民族ニ等フシ
祿券ノ法ヲ削シテ士族
ノ家産トナシ其國ヲ丕
變

シテ以テ天下ニ及サント
スト吾是ニ於テカ
版籍奉還擧果シテ虚シ
カラザル事ヲ信スル
ナリ 嗚呼五洲萬國果布
林立各其力ヲ磨勵
シテ不羈獨立人權ヲ行
ハントス近時歐洲亂生
シ 法朗西普魯士ノ戰既
ニ久シ或ハ傳フシ我羅
斯土耳格ノ譽亦既ニ開
ケリト 歐洲ノ形勢五洲
ニ關係ス 海富ノ變草莽
ニト測ルベカラス是何
等ノ時ノヤ 大政復古ノ
名徒ニ美ニシテ大政復
古ノ實未 擧ラス而天下
ノ人惘然トシテ哉 人ノ
秦人ノ肥瘠ヲ見ルガ如
シ 豈天下ノ心偏ナル
所アルガ

故ニ非スヤ之ニ加フルニ眼先豆ノ如ク一隅ノ
見解ニ局シ天下ノ理勢ヲ知ラス古今ノ變通ヲ
知ラス大道ヲ見テ以テ小トシ公義ヲ見テ以テ
私トスル者猶海内ニ蔓シ或ハ鎖國攘夷ヲ唱
或ハ今ノ世ニ居テ古ノ道ニ反ラントス嘯聚附和
シテ以テ蚩蚩ノ氓ヲ惑ス室々ノ氓ハ狗怨ス可
シ天下ニ抗顔シテ人ノ尊貴ヲ受ケ天下ト休戚
ヲ同フスハキ者或ハ其煽動ヲ免レズ朝廷ノ
盛意何ニ在ルヤ神皇ノ國勢如何ナルヤ時勢
ノ當ニ為スベキ如何ナルヤ之ヲ措テ知ラス却

テ朝廷無限ノ妨害ヲ釀成シ徒ニ神州ノ元
氣ヲ傷ク唯其响々ノ偏見ヲ信シ而天運時勢
ノ已ニ暗ニ遷リ其身ハ遙ニ其後ニ落タルヲ覺
ハス其愚亦惘ムヘシ其國ヲ謀ルノ心ヲ譬ルニ
海螺ノ其蓋ヲ開テ以テ人ノ害ヲ遠クベシト
思ヒ而其已ニ枯魚ノ肆ニ上ルヲ覺ヘサルカ如シ
其自ラ為ニスルノ行ヲ譬ルニ黠鼠ノ其巢
穴ヲ營シ而柱ノ根ヲ噬ミ柱仆レテ身亦死スル
ヲ知ラサルカ如シ吾願クハ日本ノ國海螺トナル
事十ク日本ノ人黠鼠トナル事十ク全國ヲ

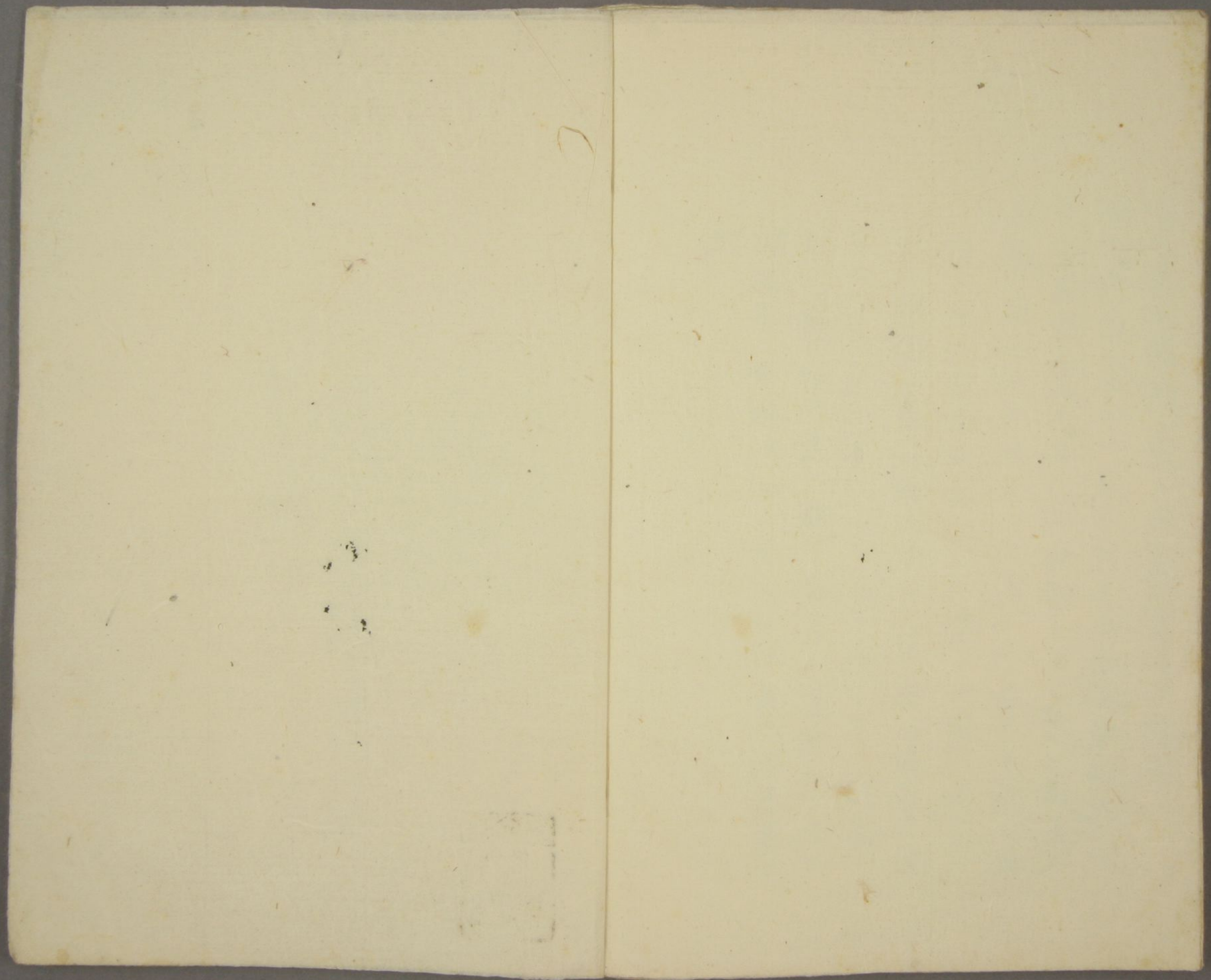
視テ以テ一身トシ其疾痛病瘡ヲ體認シ深ク
朝廷ノ至意ヲ奉シ
朝廷亦自尊ノニテ降シ天
地ノ公道ヲ踐ミ四目ヲ明シ四聰ヲ達シ八面洞
洞一視同仁誠ヲ推テ以テ人ノ腹中ニシキ
威ヲ養テ以テ國ノ綱紀ヲ振ヒ苟且スル事ナク
詭遇スル事ナク天下ノ必然ラサルヲ得サル所以ヲ
明示シ天下ノ必然ラサルヲ得サル所以ヲ確守シ
効搖セス間新セス以テ萬國ニ抗立スル所以ノ
者ヲ求メ上下心ヲ一ニシテ大ニ天地ヲ經緯シ
我天祖天神ノ休余ヲ迎ニ事ヲ音越武靈

王胡服シテ以テ其國ヲ強フス今日本ノ人亦熊
膽苦慮シテ以テ其心ヲ設ル事此ノ如ク朝廷ノ
意其郡縣ニ在カル封建ニ在カル間ハス只封建ノ
害タル所ト郡縣ノ利タル所トヲ知リ天下ノカラ一
ニシ天下ノ賊ヲ一ニシ其身家ノ私ヲ去リ其偏
固ノ心ヲ破リ日本政府ノ能樹立シテ以テ自
主自治ノ權ヲ全フスルヲ謀リ天下ノ人人々其
カニ食ミ游食ノ徒ナク益用ノ事ナク兵精ク賊
是リ物産日ニ衆ク機工日々ニ新ニ學術日ニ
進ミ智識日ニ開ケ以テ皇化ヲ助ケテ之ヲ

萬世ニ流シ之ヲ海外ニ輝サン事是固ヨリ
朝廷ノ至意ナリ是固ヨリ日本ノ急務ナリ
是固ヨリ日本ノ義ナリ是固ヨリ日本ノ
國體ナリ

跋

辭沙予ハ余何人ナルヲ知ラス友人偶是書ヲ
市ニ獲テ以テ余ニ贈ル余其立意行久ノ凡十
ラサルヲ見ル想ニ人ノ亦ヲ病テ己ノ頭痛ト
ナシ憤懣不平一世ヲ可トセス蓋亦能言テ能
行ハサル者歟然其痛ナク癢ナク雷同苟合ノ
徒ニ非サルヲ知ルヘシ爲ニ一本ヲ手寫シ之
ヲ案頭ニ寘キ將ニ同好者ト之ヲ賞シ且其人
ヲ物色ロントス庚午殘冬幽玄庵蠟梅花下白
ヲ浮テ朗讀シ遂ニ其後ニ書ス三洲生



中
州
賀
嘉
慶
年
花

西
本
家
市
屋
中
須
賀
豐
前